

仇詒七部集

阿羅野

五





尾陽茅子た檀本堂主人荷今子集を  
 編む是後あらんや不何ありはる  
 五つふは志〜多事〜るの尺本也  
 〃〜〃〜世に帯〜〃〜旅を尋〜  
 ねら〜〃〜〃〜〃〜あつと〜〃〜はる  
 〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜  
 〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜  
 〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜  
 〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜  
 〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜  
 〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜〃〜

五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十

元禄二年詠主  
芭蕉 抛香  
とてしあゆむ

元禄二年詠主

芭蕉 抛香

荒野集目錄

卷之一

花 郭公 月 雪

卷之二

歳旦 初春 仲春 暮春

卷之三

初夏 仲夏 暮夏

卷之四

初秋 仲秋 暮秋

卷之五

初冬 仲冬 歳暮

卷之六

雜

卷之七

名所 旅 述懷 志 無常

卷之八

釋教 神祇 祝

負外

曠野集卷之一

花三十句

よりのこと

く神さくくささるるくもけり山 貞室

くあさくあさくさるる花のあさく 路通

くあさくあさくさるるくもけり林のあさく 信徳

くあさくあさくさるるくもけりくもけり 晨風

くあさくあさくさるるくもけりくもけり 友五

山見より花の志を花見の那 尚自

何より花見の人の長刀 去來

みゆ乃雲よほし思もたはし 野水

もあ花あの下を引て来りいさか 急洞

下、花下と云ふもさし人花の取 越人

え風乃山帯おくふる枝もほし 一井

又あもーうあもたはぬ花の滝 俊似

兄弟のいろはあもくもものさし 嵐弾

ちももあさほぬす人さし 舟泉

次け又教てより花乃ほ 胡及

まつ花又誰う傘やいさす 長虹

柴舟乃花咲きり花乃雨 枝

あももあさほぬす人さし 鷗歩

連つたはほきさたし 花乃時 荷兮

花乃ほあさほぬす人さし 傘下

あももあさほぬす人さし 薄芝

花よさへうはくしと女ふかこつ

山あひ乃そ風なり夕日より見出しし心苗

ねあしる如夜露とさよふの雲り越人

そとあひやまつもさるおと純野水

獨直て交遣ひもり花結やま冬松

花もゆさくさ葉月おほ色とら冬文

首おしと世みおもえと鮑やま荷守

ほのこけさる人乃結

月色となへてほのこけなりゆ芭蕉

あま入乃ほきもらま

檀カヤ乃女おほぬかやう海よのいさか同

杜宇ホトトギス二十句

ほのこけさる人乃結

東風と夜やまらた

多の筆車乃夏月とつらん舞一公季吟

月よと青き花ははらばらにゆく 素堂

いそぐしはあやうし 夢も楽蜀魄 釣雪

端掲のひらりとくし 花はさくさく 越人

ねひー子乃はさく 日すもや時を 洋書 松下

跡也是年花はく 夢もさく 郭公 重五

ほとほとくははらばらにゆく 野の原 さ 柳風

あま人のまはらばらにゆく 夢もさく

あまのまはらばらに

月巻とあやうし 花のひらりとく 芭蕉

あま人のまはらばらに

檀乃花ははらばらにゆく 同

杜宇二十句

ほとほとくははらばらにゆく

あまのまはらばらに

多き車乃夏月とく 郭公 季吟

月よと春花のしほりし神のす 素堂

いそいであふるもみも楽蜀魄 釣雪

蠟燭のひらきひらきとほろりて 越人

ねひり子乃にさゆすも也時香 洋書 松下

跡也是年みはくぬきも新部公 重五

ほろりてはなれぬる野の原 い 柳風

あふりのみよもて各々のあふり

あふり

かきかきかきかきかきかきかき 氣弾

晴ちるはなれぬるもあふり 落梧

故は鼻をたははははははははは 一髪

三たふちと縁乃ねりや部公 同

海より

かきかきかきかきかきかきかき 風泉

嬉しむは入らぬ是のほろりて 枝草 杏雨

あふりやとささるも新部公 傘下



~~~~~カカル~~~~~  
同

~~~~~カカル~~~~~  
鈍可

~~~~~カカル~~~~~

~~~~~カカル~~~~~

~~~~~カカル~~~~~  
大峰 智月

~~~~~カカル~~~~~  
李桃

~~~~~カカル~~~~~  
市山

~~~~~カカル~~~~~  
鼠彈

~~~~~カカル~~~~~  
落梧

~~~~~カカル~~~~~  
一髮

~~~~~カカル~~~~~  
同

~~~~~カカル~~~~~

~~~~~カカル~~~~~  
風泉

~~~~~カカル~~~~~  
杏雨

~~~~~カカル~~~~~  
傘下

くしあやかりあ〜あま〜あま 同

馬さ〜あま〜あひま〜あま 鉦可

あ〜あま〜あま〜あま

あま〜あま〜あま〜あま

あま〜あま〜あま〜あま 大津 智月

あま〜あま〜あま〜あま 李桃

あま〜あま〜あま〜あま 市山

月三十句

あま〜あま〜あま〜あま 十一歳 梅吉

あま〜あま〜あま〜あま 湍水

あま〜あま〜あま〜あま 一雪

あま〜あま〜あま〜あま 越人

あま〜あま〜あま〜あま 昌碧

あま〜あま〜あま〜あま 津島 市柳

あま〜あま〜あま〜あま 一髪友

あま

とこまておんかばあ月影野中

長虹

峠を夜抱く月えふ那

任他

一ツ金やいふもたふのつぎ

亀洞

若月よあはれいほかなのせきり

越人

又さやうに十二もまきつら

文鱗

若月やうはなはるはまの舟

昌碧

あさつやまゝいふあゝのまじり

傘下

又さや鼓乃屋文也大乃了急

二水

見はとのせまえて人乃月見水

野水

若月乃らゝいふ

むつしや月をを見るはたき鏡

荷今

いつの月もあはれ志結て表也

同

若月や海もたぬる山もたす

去来

あさつや下るる下るるのむき

胡及

あさつやいふあはれなぬ林うさ

釣雪

あさつやいふいふいふの表

一髪

十三夜

新婦の黄きくも夜に月おの 松風

朝日

暮いづも月乃氣おほし海乃泉 荷今

二月

兄も人もたしな月夕の夕う肌 全

三月

何より能く見るとまおぬすころ月 芭蕉

四月

夕月おあんさんぐく志をいふ 卜枝

五月

何はとわんたぬをいふ也月 一泉

伊豫

六月

銀川尺書ふは月も我ら 鶴聲

世崎

七月

能く見るとまおぬすころ月 一髪

岐阜

雪二十句

大津

雪の舟や船路の影乃と 其角  
 舟の影を舟の影に照らす 芭蕉  
 竹乃雪道と影をなく 荻原 塵丈  
 かさねるや雪もあまらば 京 加生  
 車道雪をなまらさく乃 小春 <sup>加賀</sup>  
 まつ雪をなまらさく乃 顔を洗なり 越人

はつちぎに戸の影をさく乃 菴の胤 是幸  
 その影のぬきぬき雪の二川 松芳  
 くさねる影におぼろしく 雪の隈 二水  
 雪降るころ雪をさく乃 荻原 那 鬼仙  
 雪乃雪れをさく乃 枝の影 除風 <sup>岐阜</sup>  
 ゆき乃はや川路をさく乃 鷺汀 鷺汀  
 初雪やおちくさく乃 雪の影 傘下  
 雪の江の大舟とさく乃 小舟の影 菅川

雪乃新から鮭とくもあまじし  
 雪新言於きやうもや鷹新色  
 ちろくもや淡雪かたはる強飯  
 せい雪やせき雪履にて隣まで  
 ほろ雪も雪のふあまきり取  
 舟かけくくく物新とも海の雪  
 冬文  
 桂文  
 荷文  
 路通  
 野水  
 芳川

曠野集卷之二

歳旦

二日みまぬのりききも花の虫  
 もゆ人のまからまかりしむ乃春  
 けつあや凡千年結ばる縄  
 松うらると伊勢の家買人も催  
 うらむの吾連歌あすか  
 月をみおきあまのまきり門の松  
 芭蕉  
 古梵  
 風鈴軒  
 其角  
 文鱗  
 去來

上

上

かゝる木よな〜〜の柏一晶

元氣や何となく〜〜路通

元はきぬ〜〜一笑加賀

齒固又梅乃むむにふひの郡大垣如行

如く社老又さ〜〜の岐阜落楯

あゝ〜〜の宮に梅龜洞

伊勢浦や清木引休せしぬの同

さあ〜〜の梅昌碧

去年の暮ち〜〜の草元廣

小井子栗やひろむむのうと舟泉

や〜〜の糸をあらひ同

山葉又〜〜の電重五

松も〜〜の年釣雪

月を乃初も琵琶乃木同

連〜〜の子よ〜〜の一井

〜〜の神のる胡及

えねほまむこや新玉結年の海 長虹  
 とねを起て縄ゆしなぐ柳が 嵐弾  
 さや那也ふいね雨いつあふも 同  
 夢遊葉や舟の通ぬうんまぐさ 湍水  
 佛とらし神そ堂しとたれとたの 京 とた  
 の〜言や〜の目ら〜のあ〜ん 朴什  
 うと〜ととたうやひもすた〜物 冬文  
 正月の魚乃〜しらや炭きりら 傘下

くらけ結喜寂し〜は雨〜那 冬松  
 あい〜よ松あ〜い門あ〜るや 柳風  
 大服とまき年のま〜結白や 防川  
 堂〜結あ〜すまの結〜年ね〜と 大山 昌勝  
 傘に齒乃采か〜るりえ方〜那 夕道  
 袖す〜と〜松の葉あ〜る〜と〜那のま 梅舌  
 出〜と〜い〜む〜と〜也〜し〜る〜大〜く〜み 野水  
 眼〜と〜ま〜み〜お〜や〜た〜〜ふ〜ら〜ら 同

結

結



ことまきかきてこゑをかり賢勇、越人  
 和まや濱えお掃乃とみと彼 同  
 志の也志は清階よまのま厚し 荷今  
 島歳乃やまを隣よめよまを 同  
 己のま—やむ—乃まおたおま 同  
 我のまき月まふにままの毛也 僧 般齊  
 家等式う存よままのまのま 貞室

初巻

ことまきつま跡を木に割細し 越人  
 精出—て摘まよまぬまのま 野水  
 七草をまき—花—をて居子も 津山 俊似  
 女ま—まき—のあまのまのま 加賀 小春  
 側傳了袂乃たあを儀まのま 藤羅  
 吾—もま—てをぬまのま 岐阜 素秋  
 名物—つあ—のま梅お—ま 玄安宗

あは

か

梅乃花 鳴歩

越人

落梧

一髪

冬松

蕉笠

綱代民部の息く

梅乃木又あをちと木や梅の花 芭蕉

若風

去來

一桐

一笑

市柳

夢々

梅舌

野水

形~~~~~程の~~~~~の~~~~~  
塵更

引入ひ髪も入る神の~~~~~の~~~~~  
冬文

かたきちやいひぬみり二三寸  
芭蕉

うき海も舟馬の脚たがひも~~~~~と  
傘下

水仙乃とるる~~~~~舟~~~~~の~~~~~  
路通

蝶も~~~~~の~~~~~  
荷今

尚塵題  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~舟泉

梅木

つよ下か~~~~~の~~~~~  
傘下

椿

曉花の親はあ~~~~~の~~~~~  
荷今

同

藪涼く蝶も~~~~~の~~~~~  
ト枝

春雨

~~~~~雨~~~~~の~~~~~  
湍水

同

夏の雨舟をさすを降ること

氣彈

白尾鷹

もやゆと乃鹿つまは白尾小

野水

蝶乃井又まきぬかきと下ろ肌

奇生

立句よりあ草えこ法明金小

龜助

土歳

すこ〜と親子摘きのぼくし

舟泉

すあ〜と橋やしますや土の年

其角

すこ〜とあひ子のまたり土年

蕉笠

土橋やと〜と〜と〜と〜と〜と

塩車

川舟や舟のへ〜とむ土年

冬文

は〜と〜と〜と〜と〜と〜と

春江

蘭亭乃至人池り

移るをささ〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

池く移る〜と〜と〜と〜と〜と

素堂

風の吹方後よりやあきし 野水

何れも那しとるしり折れ 越人

さし柳さしあをるあかりし 一笑

尺ささるこやあをるあ柳し 小春

すつれし柳さ風よとるむ 一笑

いさしきささささささ柳し 昌碧

さされも髪のゆのあ柳し 杏雨

さししししししししし柳し 此橋

ゆささささささささ柳し 杏雨

吹風ささささささ柳し 松芳

うさささささささ柳し 接遊

いさししし野鍛治ささ柳し 荷守

蝙蝠さささ柳し 全

昔柳さささ柳し 素拙

川いさささ後へさ柳し 鷗歩

菊乃さささ柳し 生林

仲春

麦の穂に草木花を飜るる嵐也 不悔

草木花を散るる草木の土花散るる 長虹

花の散るる花散るる日影を 傘下

菜花の畦うらみ散るる花散るる 清洞

うらみ散るる花散るる花散るる 去來

一方歳を仕舞ふるうらみ散るる 昌若

うらみ散るる花散るる花散るる 越人

唐の庭又一草花 咲艸

花散るる花散るる花散るる 除風

花散るる花散るる花散るる 一橋

花散るる花散るる花散るる 冬松

花散るる花散るる花散るる 一髪

花散るる花散るる花散るる 野水

花散るる花散るる花散るる 除風

花散るる花散るる花散るる 一雪

うらみ散るる花散るる花散るる

りくくし備縄解くやる雅もや 塩車

手ばたつて二の戸あふ花陸う那 山崎 宗鑑

あささつていりあひう蛇かたつう那 落梧

あつしあふむむしうけうよつ陸 越人

いすも色と骨たむる那のかまう那 去來

花入とまけけあゆく蛇う那 落梧

不圖と花て後ふ花をな侍下 洋嶋 松下

ゆふやまの角細又いも花う那 一井

まう花もや見乃んお花多ひ那 柳風

桜桐の葉にさあつてゐる胡蝶 中 梅餅

かやう花中をまおぬ花さつふう那 吹玉

かゆせえやふい花ういひう胡蝶 百歳

花もたか

何みも花むいひあつてお花草花 忠知

ぬふいしと馬むらあふいぬ草草 荷今

あつらうくの土と花縁ち草う那 野水

馬をたるとは乃とす一洞の草を 舟泉

草刈て葦選おすま里一那 鷗歩

い蝶れと高と残さぬあさみか 燭遊

麦畑乃人えはさるもの坊う那 杜園

まげ山や勝の月おす所 大坂 戎之

ほろくと山吹ちるる勝乃音 芭蕉

松明とや月吹うけし東のい海 野水

山吹とてあのおまねあ ト 枝

一まのや山吹のあへくゆへう那 岐阜 襟雪

いやはおこやあおあ 同 蓬雨

あそふもあへく 去来

ちの鼻みおぬ 俊似

いま 長之

焚乃鼻は眼のす 長虹

黄昏とたて 崩弾

友減て 且葉



角落りてや夢くともんゆの小庵か 蕉堂

あら唐よ親よ小浦の塔下は 越人

たもと子も月し 飲も也 枕の石 傘下

人よあむ舟と陸との塔下り那 <sup>三編</sup> 友重

山まゆりてを嘆くぬる 躑躅の風 荷今

朧夜やあくるまを寝よ藤のむ 兼正

篝火又夏のよきひね 鴉舟り那 龜洞

永まはや鐘 雲路とら地地し ト枝

永まはや油志 更木乃とる 家言 野水

り春みあそ 塔とる 牙 同

巻

巻

曠野集卷之三

初集

こぼろかへれ白きと相い路通

更衣襟もたらしやわたるまよ 傘下

ころもへ刀もさしやるる 扇彈

肖柏老人乃もちたまひありし心とよ  
きこころのまもむけり又鱗うくぬき  
てて守るの影越入るおとこをいふ  
あしひらきおのけ文鱗よやうとく

あまのつばきもあまのつばきも  
何今

二五  
二五

山後まろ

あつたまのこゝろをいふはつたまのこゝろ 芭蕉

いちよふのこゝろをいふはつたまのこゝろ 一井

傍み木乃こゝろをいふはつたまのこゝろ 越人

切ふこゝろをいふはつたまのこゝろ 不交

いふこゝろをいふはつたまのこゝろ 藤蘿

りまのこゝろをいふはつたまのこゝろ 龜洞

むらゝのこゝろをいふはつたまのこゝろ 竹洞

ゆありのこゝろをいふはつたまのこゝろ 鈍可

まげら下らゝのこゝろをいふはつたまのこゝろ 夢々

上ヶ土よりつらら持とて 麦一穂 玄察

枯色もいふはつたまのこゝろをいふはつたまのこゝろ 生林

麦かすゝ葉乃木とてつらら持とて 不知

むらゝのこゝろをいふはつたまのこゝろをいふはつたまのこゝろ 鈍可

あゝあゝにたゝるや蝶乃丸いろ 嵐蘭

鳥飛てあふれまはけのこゝろをいふはつたまのこゝろ 落梧

一 教てゆくまはるるはくもりた 岐阜 季批  
 大粒か雨くこゆえー 茂子姑也 東巡  
 女きしひく見お拾ひぬ茂子の也 吉次

深川の居て

菴のあまふーくなくぬげし 嵐雪  
 さひーさひもたればえすかつき 野水

仲夏

一 月あまるるはくもりた 櫻井 元補

川多の馬屋又まはるるはくもりた 一髪  
 窓くまはるる障子まのあまふ 不交  
 扇兒くまはるる人呼まふ形 風笛  
 名細く遊まはるる水の常のぬ 青江  
 あまおあまふまはるるの常の那 合帖  
 くらかまの袖くまはるるあまふ 卜枝  
 む波て濡るる油くまはるるあまふ 鷗步

まはるるはくもりた

こころのやしのうへへあめたおぼろが 秋芳

故のむねを梅乃一木とて思ふなり 小春

うやて火よ度西せはくあやとよなり 杏雨

るのく紙傘一乃とるよとて思ふなり 二水

蚊乃瘦て鎧みうへよさまりのみ 一笑

屋み切を身のはちとて思ふなり 胡及

塔引つる深のむ志を思ふなり 児竹

足伸へく娘百合竹おとすをぬふ 此橋

竹乃子よ行燈をひてまをりや 長虹

篁乃時とて思ふなり 去來

岡おゆを思ふなり 野水

五月雨よ柳を思ふなり 一龍 大伴

この心よ小粒小なりぬ 尚白

さう雨と傘を思ふなり 糸洞

改阜

おのころの心よ思ふなり 貞室

ねた〜取まで

あ〜う〜ん〜あ〜ん〜

梅舟

芭蕉

おき〜く

梅のほ〜は〜毎〜何〜や〜懐〜や

荷守

同

あ〜あ〜は〜あ〜ん〜梅舟

越人

あ〜の〜乃〜あ〜も〜か〜ま〜ぬ〜梅舟

<sup>大津</sup> 淳兒

曲〜は〜冊の〜え〜ぬ〜う〜あ〜わ〜な

梅舟

鶴舟鼻の〜え〜ゆ〜り〜あ〜も〜か〜れ〜を

路通

松舟枝録を〜る〜る〜復野〜ん

ト枝

虹乃根を〜か〜つ野中乃標カ

鈍可

蘭舟花也泥〜る〜る〜雨

同

松子也藤露書人も〜り〜ん

越人

冷〜也灯の〜あ〜も〜乃〜あ〜も

藤羅

復能あや〜る〜火の背原入の望

且芒未

菴乃あ〜ん〜

すひつゝとさこちんー 夏は岩衣 其角

リウおや秋まこの後く 秋瓢の肌 芭蕉

ゆふのはの志ほむさ人乃きこぬ 野水

夕良き改乃留居よのうらたし 借雪

山返来て夕うをみよのあのか 市柳 律寫

名も色ち梅ゆふほり飯くさし 長虹

暮春集

楠毛初くやうく 蟬 ともなふ 昌碧

雲北半 膝うけにたむむなり 野水

りちよる傘ぬる 柳の風 傘下

あーさた板もやぬ木陰か 玄旨 法印

涼ーさく白雨あつー入は影 去來

簾ー了涼ーや宿のそりくも 荷弓

やまい庭枯砂あつーぬ曇るか 同

おもくすの人よ遠かり夕涼と 鳴海 如風

花石乃石露や草花下涼み 俊似 律寫

涼しき木構り下ゆくもの音 全

柀燈のともゆるゆる舟 卜枝

すしきさきちきやうの川白 未學

吹ちてくみれくたく連々那 改阜 秀乃正

蓮みじかやちきやうの 松坂 晨胤

笠もみじか 古梵

河骨くみのわたり 美水

とととととととと松の古 長虹

すしきさきちきやうの 俊似

連あゆむ待き 文瀾

引立てて鳥にのち 濠月

かこひくも 尚白

志ま 一髪

虫ほ 卜枝

麻の 改阜 李晨

約 越人



綿乃心き海く菊く何るの肌 素堂

曠野集卷之四

初秋

ちろろちや麻刈あとの秋は風 越人  
梧乃我もやまの川よりん輝の風 圓解

松嶋雲々君のまもろく

一葉ふた葉ききうし海にまもろりじ 仙化  
るるひらのちもや秋の夕ぐさ 津嶋 方生  
男くさ花羽織は星みち向ふ 杏雨

秋風やきこむ乃らうら弦をらん 去來

涼しさとて月あまて約難あ那 昌長

畦道くさあおすゆるあまの風 鷺汀

あしりもく通る海をいづもきりり 一髪

まじりくす燈を消く鳴きり 素秋

あけ雲と鴉妻を待たむとが 芭蕉

いなる方やまのあも東より西 其角

ぬまの池いなるあまのあまの池 舟泉

秋風やきこむ乃らうら弦をらん 去來

涼しさとて月あまて約難あ那 昌長

畦道くさあおすゆるあまの風 鷺汀

あしりもく通る海をいづもきりり 一髪

まじりくす燈を消く鳴きり 素秋

あけ雲と鴉妻を待たむとが 芭蕉

いなる方やまのあも東より西 其角

ぬまの池いなるあまのあまの池 舟泉

あはる不やひくまのあくある月 胡及

あはる不やひくまのあくある月 胡及

あはる不やひくまのあくある月 胡及

あはる不やひくまのあくある月 胡及

あはる不やひくまのあくある月 胡及

ひよあつくと秋もあつとやなる花 芭蕉

棚作作者と免さひつを蒲萄汁 不知

草あつとくかぬもりのあつと 任口伏見

とえとあつとあつとあつとあつと 荷今

仍人やあつとあつとあつとあつと 胡及

宗祇法師のあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと 素堂

あつとあつとあつとあつとあつと 俊似

仲秋

かたあつとあつとあつとあつとあつと 芭蕉

つくとあつとあつとあつとあつと 小春加賀

谷川やあつとあつとあつとあつと 益音津嶋

石切乃あつとあつとあつとあつと 傘下

芥あつとあつとあつとあつとあつと 卜枝

庵のあつとあつとあつとあつとあつと 一爰

田中あつとあつとあつとあつとあつと 一泉存縁

山崎り麻響る作<sup>り</sup>く笑々り 重五  
 紅梅あしとたうき<sup>し</sup>く<sup>る</sup>角の間 其角  
 去<sup>り</sup>地人<sup>を</sup>ぬひて<sup>る</sup>ふ<sup>る</sup>東順  
 叢<sup>ら</sup>中<sup>へ</sup>く<sup>る</sup>立枝<sup>の</sup> 林芥  
 と<sup>も</sup>也<sup>の</sup>取<sup>り</sup>て<sup>る</sup>越木  
 くのち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>こ<sup>の</sup>い<sup>の</sup>れ<sup>の</sup>宗和  
 くのち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>こ<sup>の</sup>い<sup>の</sup>れ<sup>の</sup> 如賀  
 恥<sup>と</sup>及<sup>は</sup>我<sup>た</sup>る<sup>を</sup>秋<sup>也</sup>お<sup>こ</sup>り 水枝

素葉<sup>の</sup>か<sup>り</sup>か<sup>り</sup>

又<sup>す</sup>の<sup>實</sup>の<sup>み</sup>ぬ<sup>き</sup>く<sup>る</sup>蓮<sup>の</sup> 越人  
 一<sup>半</sup>乃<sup>り</sup>芦<sup>の</sup>み<sup>の</sup>植<sup>の</sup> 防川  
 松<sup>の</sup>木<sup>を</sup>吹<sup>て</sup>あ<sup>る</sup>秋<sup>の</sup>標 舟泉  
 去<sup>り</sup>て<sup>る</sup>池<sup>の</sup>ぬ<sup>る</sup>胡<sup>及</sup>  
 ぬ<sup>る</sup>か<sup>ら</sup>ぬ<sup>る</sup>那<sup>の</sup> 曉龍  
 園<sup>の</sup>素<sup>葉</sup>の<sup>み</sup>あ<sup>る</sup>  
 こそ<sup>の</sup>旅<sup>の</sup>志<sup>を</sup> 其角

うーのよー

いあいこもしてあまのせとけのよ 芭蕉

いそがしや野有けのあ遠星 加賀 一笑

### 暮秋

あまのめく枯しら菊乃白 巴丈

きしる菊れらあそが口た 昌碧

しあ乃きくあまのあま 越人

しきや作れあまのあま 曉龍

荷多の室へ孫ぬるあまのあまをせ  
とくし菊はあまの土器出たあまの

あまのあまのあまのあま 其角

あまのあまのあまのあま 同

あまのあまのあまのあま 永

あまのあまのあまのあま 伊豫 子周

あまのあまのあまのあま 濃列 其夕

路通 加生  
あはれ  
草一枯 梅やささのくま 梅のささのくま  
路通

曠野集卷之五

初冬

あはれ ちのちめ といは 時雨や 湖春

あはれ ちのちめ といは 時雨や

あはれ ちのちめ といは 時雨や 尚白

あはれ ちのちめ といは 時雨や 湍水

一百句 真作又

あはれ ちのちめ といは 時雨や 荷今

人まほしきもの

と物まほしきもの く物ま 落梧

約の下降の きく物 吹玉

返し守り きく物 傘下

こか きく物 荷今

つ繋 きく物 一髪

この きく物 同

批把乃花人の きく物 同

子条乃 きく物 李晨

梨花 きく物 野水

蓑虫乃 きく物 昌碧

麦 きく物 全

乃 きく物 一升

強 きく物 落梧

石白乃 きく物 胡及

青 きく物 文鱗

いさよーしき物籠よりも蒸る水 卜枝

あつ粘り風乃体よりなる野水 洞雪

蓮池よりうめりもえゆる枯葉水 一髪

層の底より石を伝まつく加納水 松芳

こがしーし吹きぬれり層水 杏雨

雪も物にぬれしひきぬれり水 蕉笠

寒月

寝るもあつく度く月夜面白 野水

あつ漬乃大根あつ月あつ 俊似

仲冬

ねろーしきく鐘よりあつ水 勝吉

志ら涼やつまつたきもあつ水 皇治

搔きもる馬糞にやもあつ水 林芥

柴もあつてあつ水 杏雨

いさよーしき水もあつ水 宗之



新井のやんらん乃家此のちれり 杜園

乃棚乃葉此のまゝなる水の部 勝吉

深き池水此のまゝ 歌まら葉 俊似

しきりてその川此のまゝなり 除凡

打木 何れなり 氷柱 夜舟

兼題雪舟

峠 とて 雪舟 糸 を り の 場 木 水 嵐 彈

ぬ川 く ま り の 雪 舟 は ま り の に は り の 水 荷 今

雪舟 こめて 雪舟 は ま り の 長 虹

馬 を ま り の 雪 舟 は ま り の 水 一 井

雪舟 引 也 休 む と 並 と 立 て る 龜 洞

つ ま り の と ね を ま り の 雪 舟 の 言 咄

青海 也 羽 白 黒 鴨 赤 ら 忠 知

舟 は ま り の 水 は ま り の 水 龜 洞

朝鮮 を ま り の 水 は ま り の 水 村 俊

井を切らるるは六月夜に深き  
水とこもる裸なるなり

汗かして谷と突くむ氷室の 冬松  
 海風鳴乃壘埋きく氷室の 利重  
 炭竈乃穴ぬくやう落りあり 亀洞  
 藤屋の女はくちやをいぢる 塙車  
 火の河へてあはくあり地を椿 <sup>加賀</sup> 一矢  
 いらくく一尻起せばあはれも 亀洞  
 冬はあはれはくよりそらんはくら 芭蕉

歳暮

餅つおやゆのみねすほくひ 李下  
 吾書つくく史地ものまはり <sup>年の暮</sup> 尚白  
 むらう花の後をすくまへちぢぬ 野水  
 ももゆく櫓つていゆる 葉木細小 亀洞  
 煤もくひ梅もくちぢる 瓢箪 一髪友

本曾の月こくくくみまゆひん  
 として杯の宴もあつた  
 今年の暮もいじあつたかたのや  
 ちぢる

としのかんばり  
 門松  
 田代

河  
 一  
 存  
 習  
 今



